

～地区社会福祉協議会の皆様へ～

【目次】

- P1：新設地区社会福祉協議会の活動紹介 < 錦ヶ丘地区、松陵・永和台地区 >
P2：安心の福祉のまちづくり助成金の活用事例紹介 < 通町地区、榴岡地区 >
P3：地域福祉活動推進のための活動拠点づくりの事例紹介 < 東六地区 >
P3・4：仙台市社協からのご案内 < 助成金制度・第4次地域福祉活動計画・小地域福祉ネットワーク活動など >

新設地区社会福祉協議会の活動紹介

平成 27 年度は 2 つの地区社協が新たに設立され、市内の地区社協数は 103 地区となっています。今号は、設立から間もなく 1 年を迎える地区の状況についてお話を伺いました。

錦ヶ丘地区社会福祉協議会 (青葉区宮城地区)

若い世代にも活動参加を

○取材協力：(写真左から) 子安啓允^{ひろまさ}会長、高橋正義地域福祉活動推進員



錦ヶ丘地区社協は、平成 27 年 4 月の錦ヶ丘小学校開校に合わせ、愛子地区から分かれる形で設立されました。昨年 10 月現在の高齢化率は 10.1%であり、仙台市平均の 21.8%の半分以下となっています。一方、14 歳未満の割合は 30.1%で、市平均の 12.1%を大きく上回っており、若い世代が非常に多い地区です。

初年度の活動は人手不足を補いながら活動体制を整える時期と捉え、隣接する広瀬地区・愛子地区との合同行事や、これまでも取り組んできた一人暮らし高齢者の訪問活動やサロン運営などの活動を中心に進めてきました。今後の活動体制づくりに向けて、子安会長は「高齢者が少ない分、30～40 代の若い世代に役員に加わってもらいたい。夏祭りや敬老会などの地域行事を

通して『やる気のある人』を見つけていきながら、新しい事業やコミュニティづくりに取り組みたい。」と話しておられました。高橋地域福祉活動推進員も「色々な要望を吸い上げ、その中で出来ること・関係団体に頼むことを選び分けながら、やるべき事業を決めていきたい。」と柔軟に対応する考えを話してくださいました。

今後の活動は、以前から取り組んできた花壇づくりなどの環境美化活動や、幅広い世代が参加しやすい活動を継続しながら、小学校やコミュニティセンター、児童館などと連携しながら新たな取り組みを検討していきたいとのことで、地域のニーズに合わせた活動展開が期待されます。

松陵・永和台地区社会福祉協議会 (泉区)

体制強化で活動の幅を拡大

○取材協力：(写真左から) 田崎文雄事務局長、石川俊彦会長



松陵・永和台地区社協は、ハートフル松陵、松陵、永和台の 3 つの地区社協が合併して設立されました。合併前の各地区の世帯数は千に満たず、今後の高齢化による活動人材の不足が課題となっており、合併によって互いを補いながら幅広い活動ができるのではないかと地道に協議を進めた結果、昨年 4 月に合併が実現しました。

従前の 3 つの地区社協は、合併後も「部会」としてそれぞれの活動を続けるとともに、合併のメリットを活かした活動にも取り組んでいます。特に活動者が増えたことで、企画・アイデアに広がりがあり、事務負担の軽減にもつながったほか、「合同サロン」や活動メンバー対象の「合同研修会」のような大掛かりな活動を

協力して開催することができるようになりました。

「合併により、これまでの地域の枠を超えて住民同士が相互交流する機会を持つことができ、互いの顔が見えてきた。今後もこのような機会を増やしていきたい。」と石川会長は手応えを感じた様子です。また、今後の災害時要援護者体制づくりも大きな課題として、「災害発生時の見守り・誘導を行う『協力員』の募集を呼び掛け、地区社協の支援体制づくりを進めていきたい」と田崎事務局長は話しておられます。

活動の担い手不足が地区の課題とされていますが、今後も部会間の協力が進むことにより、人手不足の軽減や活動の幅がますます拡大されることが期待されます。

安心の福祉のまちづくり助成金の活用

平成 27 年度は、市内 13 地区社協からこの助成金制度に申請をいただきました。今号は、その中から復興公営住宅入居者支援に取り組んだ 2 地区社協にお話を伺いました。

通町へようこそ！

(青葉区：通町地区)

通町ウェルカムサロンの開催

○取材協力：(写真左から)白戸武美事務局長、大内修道会長、藪松子副会長、飯塚幸枝庶務



通町地区社協では、通町復興公営住宅入居者と地域住民との交流を目的に「安心の福祉のまちづくり助成金」を活用した「通町ウェルカムサロン」を開催しました。

サロンはお茶会に加え、レクリエーションを取り入れて企画しました。地区内でおなじみの「ディスコン」(チームに分かれて円盤的に投げ合うゲーム)のほか、

「絵手紙づくり」や「勾玉づくり」など、幅広い年齢層の方に参加いただけるように工夫しました。

通町地区内では、通町復興公営住宅に入居された方々を支援するために、これまでも地域福祉団体が連携して作成した「通町地区エリアマップ」

◀第3回サロン案内ちらし。毎回、人脈を活かして講師を探しています。

を配布したり、民生委員が中心となって世帯訪問を行うなど、住民との接点づくりに努められていました。地域でのそうした地道な取り組みもあり、サロンは和気あいあいとした雰囲気の中、参加された方々の交流が深まっていきました。

今回は助成金を活用し、地区社協が日頃から取り組むサロン活動のノウハウを活かしたコミュニティ支援を行ったことで、ご近所で顔の見える関係づくりにつながる成果となりました。

今後について、大内会長は「これからは地域住民としてお付き合いできるよう、月 1 回開催している地域住民対象のサロンにおいていただきたい。」と話しておられます。また、白戸事務局長は「入居者の方々は様々な地域から集まっており、互いに気心が知れるまで大変だと思います。我々も相談を受ける機会を多く持つよう、気に掛けていきたい。」と地域内のつながりづくりに意欲的な考えを示されています。

イーグルスドームは大盛況

(宮城野区：榴岡地区)

宮城野復興公営住宅入居者交流会の開催

○取材協力：(写真左から)末永栄六会長、笠井文子民生委員



榴岡地区では、地区内の復興公営住宅の入居者支援を目的に、地域関係団体のメンバーで構成する「榴岡復興公営住宅支援者の会」を立ち上げました。

「支援者の会」では、民生委員の訪問活動を通じて「住宅内で気軽に声を掛けあえるようになりたい」という入居者の声を聞き、入居者同士が横のつながりを持つ機会づくりとして「安心の福祉のまちづくり助成金」を活用し、交流会を企画しました。

交流会は、楽天イーグルス・Kobo スタ宮城内のイーグルスドームを会場に 145 人が参加しました。当日は、地域に馴染んでもらおうと地域紹介や芋煮鍋を提供するおもてなしを行ったほか、普段からイベントなどで協力いただいている常磐木学園高校の「フラダンス部」や、「すずめ踊り」のグループの演技披露もあり、盛況の中、住民同士の交流が進みました。交流会企画の中心となった笠井民生委員からは、交流会後の変化について「地区社協が定期的で開催する『お茶っこサロン』に

交流会へ参加された方々が誘い合って来てくれて

います。」と嬉しそうに話されています。また、「支援者の会」代表も兼ねる末永会長は「復興公営住宅に入居された方も我々の地域の仲間です。早く地域に溶け込んでもらえるようにしていきたい。」と話されています。

再開発が進む榴岡地区では、多くの集合住宅の建設も進んでいます。今回の「支援者の会」の取り組みは、新しい住民を受け入れる地域内の連携体制づくりを進める成果もあり、これからの地域づくりにも大いに活かされていくと見込まれます。

▶大勢で食べる芋煮は最高! 楽天グッズの抽選会もありました。



地域福祉活動推進のための活動拠点づくりの事例

仙台市社協では、地域福祉活動推進のための活動拠点づくりを支援しています。今号は、平成 25 年度に第 2 期モデル事業で指定を受けた地区の中から、東六地区にお話を伺いました。

地域事情に合わせた活動拠点づくり（青葉区：東六地区）

- ◇活動拠点設置場所：東六コミュニティ・センター(2 階小会議室+1 階階段下スペース)
- ◇活動拠点設置時期：平成 26 年 3 月
- ◇共同運営団体：連合町内会、地区社協、地区民児協、赤十字奉仕団、体育振興会、コミセン運営委員会(6 団体)
- 取材協力：内池榮子会長、青山農子地区民児協会長、阿部恵子赤十字奉仕団長、藤村タカ地域福祉活動推進員、小関桂子地域福祉活動推進員

▶会議室での打合せ。コミセンは気軽に来ることのできる便利な拠点です。



東六地区内の福祉関係団体では、それぞれの会長宅で打合せや書類整理などの作業を行う機会が多く、会長にかかる負担や安全な書類の保管などが課題となっていました。

その改善のため「活動拠点づくりモデル事業」の助成制度が役に立っています。活動拠点の設置場所は、日頃から会議などで利用していた東六コミセンを候補とし、コミセン運営委員会を含む福祉関係 6 団体で話し合いを重ねました。その結果、集合場所の確保のためにコミセン小会議室を優先貸出すること、書類や備品などの管理のためにコミセン階段下に各団体用の保管場所を確保することで意見がまとまり、共通の活動拠点が整備されることになりました。

会議室は他の利用者への貸出もあるため、各団体が荷物を置いたままにできませんが、各団体が会議などに活用するほか、隣接する会議室との間仕切りを移動することで、サロン活動にも便利に利用しています。



また、階段下の空きスペースには、モデル事業助成金で購入した保管庫 3 台を設置しました。保管庫のカギは複数の役員が共有

◀階段下の保管庫スペース。鍵は複数の役員が共有しています。

するほか、パソコンやプリンター、プロジェクターなどの共用の備品も置けるようになりました。

このように活動拠点を整備したことで、各団体の活動に次のような効果がありました。

- ・場所の確保がしやすくなり、各団体の定例会開催や、随時の打合せなどを行う機会が増えた。
- ・活動拠点に届く各団体の郵便物や活動資材などは、コミセン事務職員が指定の保管場所に仕分けしてくれるようになり、コミセン事務職員が不在の時間帯でも受け取ることができるようになった。
- ・パソコンなどの備品操作方法を役員間で教え合い、広報紙づくりなどに活かせるようになった。特に、復興公営住宅入居者支援のための地域マップづくりは、活動場所・機材を活かし、団体同士が連携して完成させることができた。

活動拠点の整備は、利便性が向上しただけでなく、様々な企画やアイデアが集まることで全体的な地域福祉活動につながる大きな成果もたらされました。今後の展開について、内池会長は「拠点から発信するブログなどを活用した広報も考えています。地域住民に福祉委員や民生委員の活動をわかってもらうことで、将来的に地域の活動者の確保に繋げていきたいです。」と抱負をお話しされていました。

地域福祉活動を推進する助成金をご活用ください

仙台市社協では、平成 28 年度も次の助成制度の実施を予定しております。

助成制度名	助成対象活動	助成対象団体	助成上限
安心の福祉のまちづくり助成金	被災者支援活動、または東日本大震災を契機とした地域課題対象の地域コミュニティ再生・強化活動	地区社協	100,000 円
復興公営住宅建設地域における見守り・支え合い推進事業助成金	復興公営住宅入居者対象の見守り支援およびその方々の生活課題を地域で支える体制づくり	復興公営住宅建設 地域の地区社協	100,000 円
支え合い活動推進費助成金	地域福祉を推進するためのネットワーク構築や、地域福祉の担い手の育成を目的とする活動	地域住民団体、 または福祉関係団体	40,000 円
地域福祉推進のための拠点整備事業	地域の諸団体と連携して地域福祉活動拠点をつくるための活動(会議等の事務経費および備品等の経費)	地区社協	100,000 円

各助成制度の詳細、その他地域福祉活動に関するご相談等は、各区・支部事務所までお気軽にお問合せください。

第4次地域福祉活動計画(せんだい^{あい}プラン)がスタートします

地域福祉活動計画は、一人ひとりの市民や様々な地域関係団体・組織、行政が協力し、住民主体の福祉コミュニティづくりの充実を目指す民間の計画です。このたび策定した第4次地域福祉活動計画では、「一人ひとりの市民が、その人らしく地域で安心していきいきと暮らせる福祉のまちづくり」というこれまでの基本理念を継承しながら、平成28年度から5カ年の基本目標や施策の方向性を決めました。

今回の計画は、身近な福祉課題への気づき・共有・解決が連続的に行われること、一人ひとりの市民の参加を促進することを基本的な目標の柱としています。その実現に向けて、東日本大震災で発揮された地縁組織や住民同士の支え合い・助け合い、復興支援の取り組みなど、多くの経験やつながりを活かしながら、様々な施策に取り組むよう意識してまとめられたことが特徴です。

今後は、この計画の考え方や方向性を広く市民の皆様と共有しながら、地域福祉の推進に取り組んでまいります。皆様におかれましても、より一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

◀学生・大学関係者参加のワークショップの様子。計画策定には、多くの市民参加の機会を取り入れながら、様々な視点や課題を集約するよう努めました。



▲第4次地域福祉活動計画策定委員会の様子。福祉、介護、医療、学識経験者など、様々な分野から選出された委員が審議を重ねました。



小地域福祉ネットワーク活動 助成体系の一部が変わります

仙台市社協では、地区社協会長・地域福祉活動推進員・学識経験者をメンバーとする「小地域福祉ネットワーク活動推進検討会」を設置し、さらなる活動の充実について審議を重ねてきました。

中でも、地域福祉活動推進員がコーディネート役となって取り組む「地域内の話し合い」や「ニーズ把握」、「ネットワークづくり」などの活動に関して審議が進みました。活動の目標設定や効果を想定した計画づくり、活動の振り返りなどを通じた地域課題解決のサイクルづくりが検討された結果、平成28年度から基礎的活動助成体系の一部を変更し、以下の内容で「基本メニュー」と「選択メニュー」の区分を設けることになりました。

- ◇「基本メニュー」は、これまでの安否確認活動や連絡調整会議、調査活動、研修、広報活動への助成です。
- ◇「選択メニュー」は、基本メニューでは取り組みにくい「地域の抱える課題」の中から、特に解決したい目的を定めて、その課題解決のために重点的に取り組む活動への助成です。

活動の進め方などのご相談、お問合せは、主に仙台市社協各区・支部事務所のコミュニティソーシャルワーカーが担当させていただきますので、お声掛けくださいますようお願いいたします。

「地区社協会長・地域福祉活動推進員等研修会」を開催します

仙台市社協では、上記記事で紹介しました「第4次地域福祉活動計画」、「小地域福祉ネットワーク活動 助成体系の一部変更」に加え、仙台市が策定する「第3期仙台市地域保健福祉計画」に関するご説明を内容として、標記研修会を開催いたします。

【開催日時】 平成28年4月19日(火)

①午前の部：10時30分～12時00分〔宮城野区・若林区・泉区内の地区社協対象〕

②午後の部：13時30分～15時00分〔青葉区(宮城支部含む)・太白区内の地区社協対象〕

【会場】 仙台市福祉プラザ 1階 プラザホール

【参加対象】 地区社協会長、地域福祉活動推進員、会計担当役員等(1地区3名以内)

※地区社協会長の皆様には、参加方法などの詳細を含めたご案内を送付しております。

お問合せ先・発行：社会福祉法人仙台市社会福祉協議会

TEL：022-223-2026(地域福祉課地域福祉係) 〒980-0022 青葉区五橋2-12-2 仙台市福祉プラザ6階